

2022年12月14日
日本銀行北九州支店

北九州・京築地区の金融経済概況

(2022年12月14日)

(本件に関するお問い合わせ先)

日本銀行北九州支店 Tel 093-541-9112

当資料は当店ホームページにも掲載しています。

(<https://www3.boj.or.jp/kitakyushu/data/gaikyo.html>)



1. 総論

北九州・京築地区の経済は、緩やかに回復している。12月短観（全産業）をみると、企業の業況判断は改善した。

最終需要の動向をみると、公共投資は、弱めの動きとなっている。輸出は、増加している。設備投資は、高めの水準にある。個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、感染抑制と経済活動の両立が進むもとで、緩やかに回復している。住宅投資は、横ばい圏内の動きとなっている。

こうした中で、生産は、緩やかに回復している。雇用情勢をみると、労働需給は、持ち直している。

【前回との比較】

項目	前回	今回	
景気判断	緩やかに回復している。	緩やかに回復している。	
需要項目	公共投資	弱めの動きとなっている。	弱めの動きとなっている。
	輸出	増加している。	増加している。
	設備投資	高めの水準にある。	高めの水準にある。
	個人消費	感染症や物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。	物価上昇の影響を受けつつも、感染抑制と経済活動の両立が進むもとで、緩やかに回復している。
	住宅投資	横ばい圏内の動きとなっている。	横ばい圏内の動きとなっている。
生産	緩やかに回復している。	緩やかに回復している。	
雇用	労働需給は、持ち直している。	労働需給は、持ち直している。	

2. 需要項目別動向

公共投資は、弱めの動きとなっている。

輸出は、増加している。管内の10月の貿易収支は、黒字であった。

設備投資は、高めの水準にある。

2022年度の設備投資計画は2021年度を下回るものの、例年と比べて高めの水準を維持している。供給制約や原材料コスト高の影響を受けつつも、業績回復に伴う前向きな設備投資の拡がりが見られる。

個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、感染抑制と経済活動の両立が進むもとで、緩やかに回復している。

食料・日用品や衣料品の販売は、物価上昇を受けて一部の消費者に節約志向の強まりが見られるが、全体としては底堅く推移している。高額品の販売は、緩やかな増加が続いている。飲食や旅行・観光関連のサービス消費は、全国旅行支援等の後押しもあって、着実に回復している。一方、乗用車販売では、自動車減産の影響が残っている。

住宅投資は、横ばい圏内の動きとなっている。

3. 生産

生産は、緩やかに回復している。

▽業種別生産動向

鉄鋼	高炉	弱含んでいる。
	電炉	高水準で推移している。
化学		海外経済の減速等を受けて、弱含んでいる。
セメント		横ばい圏内で推移している。
住設機器		値上げ前の駆け込み需要や新製品の好調な販売から、大幅に増加している。
電気機械		供給制約の影響が和らぐもとの、緩やかに増加している。
電子部品		高水準で推移している。
自動車		回復している。

4. 雇用

雇用情勢をみると、労働需給は、持ち直している。

5. 物価

消費者物価（除く生鮮食品、北九州市）の前年比は、3%台半ばとなっている。

6. 企業倒産

企業倒産をみると、落ち着いた動きとなっている。

7. 金融情勢

実質預金残高、貸出金残高は、前年を上回って推移している。

以 上